

単位数	2	普通科・1年	履修	必修・選択
教科書	新編現代の国語（東京書籍）		副教材等	
学習の到達目標		授業の進め方	履修の条件・進路	
1 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付ける。 2 論理的思考力や、共感・想像する力、伝え合う力を養い、思いや考えを広げ、深める。 3 言葉が持つ価値への認識を深め、言葉を通して他者や社会に関わる態度を養う。		1 講義形式で行う。 2 調べ学習やグループワークも取り入れる。	全員が履修する。	

	学 習 内 容	学習のポイント	学習の到達目標
1 学 期	中間 考 査 自己を見つめる 「こそめスープ」 気になるニュースについて語ろう 他者に出会う 「未来をつくる想像力」	- 筆者独自の考え方を読み取り、人それぞれの意識の世界について考える。 - 情報を整理し、内容や構成に注意して話す。 - 情報と想像力の関係を論じた文章を読み、文章の構成や展開を理解する。	- 要旨、要点を把握し、自分の考えを深める。 - 的確に伝わるように、立場や考えを明確にする。 - 意見の根拠を的確に理解して、筆者の主張をつかむ。
	期末 考 査 他者に出会う 「水の東西」 視野を広げる 「スキマが読む都市の緑と生命のつながり」 情報を整理しながら話し合おう	「水」を巡る東西の文化の比較を通じて、日本文化の特質について考える。 - 提示された新しい視点について理解し、自分の考えを深める。 - 話し合いの進め方を工夫し、考えを深める。	- 比較を通じて「東西」の文化の差異への理解を深める。 - 筆者の主張を理解し、資料との関連性を捉えながら考えを深める。 - 話し合いの目的、種類、状況に応じて、話し合いの仕方を工夫する。
2 学 期	中間 考 査 社会と関わる 「鍋洗いの日々」 「森で染める人」 憧れの職業について調べ、整理してまとめよう	- 筆者の体験談から、仕事に対する思いを読み取る。 - 自然の循環の中で仕事・生活をする筆者の思いを捉える。 - 自分の興味・関心のある対象について調べ、読み手の理解が得られるように工夫する。	- 筆者の思いを理解し、職業に対する考えを深める。 - 自然と融合した生き方に対する筆者の思いを理解し、考えを深める。 - 調べたことを整理し、考えたことを分かりやすくまとめる。
	期末 考 査 世界とつながる 「美しさの発見」 「りんごのほっぺ」 新聞記事を読んで意見文を書こう	「美」を題材とした文章の展開を論理的に捉え、筆者の価値観を理解する。 - 戦時下の人々の状況と、筆者の思いを読み取る。 - 記事の読み取りを踏まえ、根拠を明確にして意見をまとめる。	「美」に対する感受性の養い方について、考えを深める。 - 戦争体験を語り継いでいくことの意義について話し合う。 - 問題の本質を捉え、根拠を明確にして意見文を書く。
3 学 期	学年 末 考 査 未来に目を向ける 「知識はなぜ「正しかった」か」 「真の自立とは」 読み手のアドバイスを生かして紹介文を書こう	- タイトルや具体例に注意して、科学についての筆者の考えを読み取る。 「自立」の在り方について考察する文章を読み、自分の考えを持ち、視野を広げる。 - 紹介文に必要な情報を収集し、自分の文章の特長や課題を捉えながら文章を書く。	- 筆者の主張を踏まえ、推論の在り方について理解を深める。 - 現代の状況に関心を持ち「自立」という観点で考え、話し合う。 - 目的や意図に応じて文章を整え、助言を踏まえて推敲する。
取組 の ア ド バ イ ス	○授業の取組 1 関心を持ち、主体的に取り組む。 2 自分の考えや思いを言葉にする。 ○家庭学習 1 予習・復習をする。 2 時事問題に関心を持ち、新聞を読んだりニュースを見たりする。 ○定期考査の勉強 1 教科書・ノートを用いて、授業の内容を確認する。 2 プリントの見直しをする。 ○その他のアドバイス 1 日頃から、言葉や文字に関心を向ける。 2 物事を論理的に考えることを意識する。		
評 価 方 法	3つの観点別学習状況の評価の達成度をもとにして、総合的に評価します。（100点法）		
	知識・技能	実社会に必要な国語の知識や技能が身に付いている。（40点）	
	思考・判断・表現	論理的に考える力や、深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。（30点）	
	主体的に学習に取り組む態度	言葉を通じて積極的に他者と関わったり、思いや考えを深めたりしながら、言葉のもつ価値への認識を深めようとしているとともに、言語感覚を磨き、言葉を効果的に使おうとしている。（30点）	

単位数	2	生産食品科・1年	履修	必修・選択
教科書	新編現代の国語（東京書籍）		副教材等	
学習の到達目標		授業の進め方		履修の条件・進路
1 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付ける。 2 論理的思考力や、共感・想像する力、伝え合う力を養い、思いや考えを広げ、深める。 3 言葉が持つ価値への認識を深め、言葉を通して他者や社会に関わる態度を養う。		1 講義形式で行う。 2 調べ学習やグループワークも取り入れる。		全員が履修する。

	学 習 内 容		学習のポイント	学習の到達目標
1 学 期	中間 考 査	自己を見つめる 「こそめスープ」 気になるニュースについて話そう 他者に出会う 「未来をつくる想像力」	- 筆者独自の考え方を読み取り、人それぞれの意識の世界について考える。 - 情報を整理し、内容や構成に注意して話す。 - 情報と想像力の関係を論じた文章を読み、文章の構成や展開を理解する。	- 要旨、要点を把握し、自分の考えを深める。 - 的確に伝わるように、立場や考えを明確にする。 - 意見の根拠を的確に理解して、筆者の主張をつかむ。
	期末 考 査	他者に出会う 「水の東西」 視野を広げる 「スキマが育む都市の緑と生命のつながり」 情報を整理しながら話し合おう	「水」を巡る東西の文化の比較を通じて、日本文化の特質について考える。 - 提示された新しい視点について理解し、自分の考えを深める。 - 話し合いの進め方を工夫し、考えを深める。	- 比較を通じて「東西」の文化の差異への理解を深める。 - 筆者の主張を理解し、資料との関連性を捉えながら考えを深める。 - 話し合いの目的、種類、状況に応じて、話し合いの仕方を工夫する。
2 学 期	中間 考 査	社会と関わる 「鍋洗いの日々」 「森で染める人」 憧れの職業について調べ、整理してまとめよう	- 筆者の体験談から、仕事に対する思いを読み取る。 - 自然の循環の中で仕事・生活をする筆者の思いを捉える。 - 自分の興味・関心のある対象について調べ、読み手の理解が得られるように工夫する。	- 筆者の思いを理解し、職業に対する考えを深める。 - 自然と融合した生き方に対する筆者の思いを理解し、考えを深める。 - 調べたことを整理し、考えたことを分かりやすくまとめる。
	期末 考 査	世界とつながる 「美しさの発見」 「りんごのほっぺ」 新聞記事を読んで意見文を書こう	「美」を題材とした文章の展開を論理的に捉え、筆者の価値観を理解する。 - 戦時下の人々の状況と、筆者の思いを読み取る。 - 記事の読み取りを踏まえ、根拠を明確にして意見をまとめる。	「美」に対する感受性の養い方について、考えを深める。 - 戦争体験を語り継いでいくことの意義について話し合う。 - 問題の本質を捉え、根拠を明確にして意見文を書く。
3 学 期	学年 末 考 査	未来に目を向ける 「 はなはだ 正しかた」か 「真の自立とは」 読み手のアドバイスを生かして紹介文を書こう	- タイトルや具体例に注意して、科学についての筆者の考えを読み取る。 「自立」の在り方について考察する文章を読み、自分の考えを持ち、視野を広げる。 - 紹介文に必要な情報を収集し、自分の文章の特長や課題を捉えながら文章を書く。	- 筆者の主張を踏まえ、推論の在り方について理解を深める。 - 現代の状況に関心を持ち「自立」という観点で考え、話し合う。 - 目的や意図に応じて文章を整え、助言を踏まえて推敲する。
取組 の ア ド バ イ ス	○授業の取組 1 関心を持ち、主体的に取り組む。 2 自分の考えや思いを言葉にする。 ○家庭学習 1 予習・復習をする。 2 時事問題に関心を持ち、新聞を読んだりニュースを見たりする。 ○定期考査の勉強 1 教科書・ノートを用いて、授業の内容を確認する。 2 プリントの見直しをする。 ○その他のアドバイス 1 日頃から、言葉や文字に関心を向ける。 2 物事を論理的に考えることを意識する。			
評 価 方 法	3つの観点別学習状況の評価の達成度をもとにして、総合的に評価します。（100点法）			
	知識・技能	実社会に必要な国語の知識や技能が身に付いている。（40点）		
	思考・判断・表現	論理的に考える力や、深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。（30点）		
	主体的に学習に取り組む態度	言葉を通じて積極的に他者と関わったり、思いや考えを深めたりしながら、言葉のもつ価値への認識を深めようとしているとともに、言語感覚を磨き、言葉を効果的に使おうとしている。（30点）		

	学 習 内 容	学習のポイント	学習の到達目標
1 学 期	中間 考 査 随筆「さくらさくらさくら」 古文入門「児のそら寝」 訓読の基本	・引用歌や体験談に注意し、日本独特の桜に対する感性について理解を深める。 ・歴史的仮名遣いについて理解し、説話の面白さを読み取る。 ・漢文の特色や訓読の決まりを理解し、古典を学ぶ意味について考えを深める。	・本文や引用歌の考察を踏まえ、筆者の桜への思いを読み取る。 ・文字や言葉の変化について理解を深め、古典の世界に親しみを持つ。 ・漢文訓読に関する基本的な知識や漢文の構造について理解する。
	期末 考 査 小説「とんかつ」 随筆「奥山に、猫またといふものありて」 故事成語「五十歩百歩」	・登場人物の心理を読み取り、題名を考慮に入れて主題を考える。 ・随筆に表れた作者の考えを、叙述を基に的確に捉える。 ・故事英語に興味を持ち、故事成語が日本語において果たす役割を理解する。	・言動の描写に着目し、登場人物の心情とその変化を読み取る。 ・作者が伝えたことや自分の考えをどうまとめているか、考える。 ・故事成語の元になった話を読むことを通して、漢文訓読に慣れ親しむ。
2 学 期	中間 考 査 詩歌「I was born」 随筆「うつくしきもの」 絶句と律詩一七首	・散文詩を読み、生命への思いを深く味わう。 ・作品の内容を自分と関連づけながら、ものの見方、感じ方、考え方を深める。 ・漢詩に描かれた情景や心情を読み取り、優れた表現に親しむ。	・詩や題名に込められた作者の思いについて考える。 ・古今異義語を軸に、ものの見方、感じ方、考え方を捉える。 ・詩形と押韻を確認し、表現の仕方や特色を理解する。
	期末 考 査 小説「羅生門」 物語「芥川」 論語一八章	・極限状態にある登場人物の心情の変化を、展開に即して読み取る。 ・作品や文章の成立した背景を踏まえ、内容の理解を深める。 ・『論語』に表れているものの見方や考え方について理解し、心を豊かにする。	・登場人物の内面の変化から、主題を考えて自分の考えを整理する。 ・歌物語の特徴や表現の仕方を理解し、歌を中心に、心情の推移を読み取る。 ・孔子の考え方を知り、孔子の思想に興味を持つ。
3 学 期	学年 末 考 査 小説「デューク」 物語「筒井筒」 史話「曹公戦於白馬」	・主人公の心情の変化を読み取り、細かい表現に注意して話の展開を捉える。 ・歌物語に描かれている内容を、叙述を基に的確に捉える。 ・登場人物の生き方や考え方を読み取り、史話の面白さを味わう。	・登場人物の言動の注目し、心情を理解する。 ・本文に即して人物像を捉え、歌に託された思いを読み取る。 ・脚注を参照しながら、話の展開に即して内容を理解する。
取組 の ア ド バ イ ス	○授業の取組 1 関心を持ち、主体的に取り組む。 2 自分の考えや思いを言葉にする。 ○家庭学習 1 予習・復習をする。 2 時事問題に関心を持ち、新聞を読んだりニュースを見たりする。 ○定期考査の勉強 1 教科書・ノートを用いて、授業の内容を確認する。 2 プリントの見直しをする。 ○その他のアドバイス 1 日頃から文学作品に親しむ。 2 夏休み明けには読書感想文を提出する。		
評 価 方 法	3つの観点別学習状況の評価の達成度をもとにして、総合的に評価します。（100点法）		
	知識・技能	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができる。（40点）	
	思考・判断・表現	「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。（30点）	
	主体的に学習に取り組む態度	言葉が持つ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を持ち、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。（30点）	

単位数	2	生産食品科・1年	履修	必修・選択
教科書	新編言語文化（東京書籍）		副教材等	
学習の到達目標		授業の進め方		履修の条件・進路
1 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付け、日本の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。 2 論理的思考力や、共感・想像する力、伝え合う力を養い、思いや考えを広げ、深める。 3 言葉が持つ価値への認識を深め、言葉を通して他者や社会に関わる態度を養う。		1 講義形式で行う。 2 調べ学習やグループワークも取り入れる。		全員が履修する。

	学 習 内 容	学習のポイント	学習の到達目標
1 学 期	中間 考 査 随筆「さくらさくらさくら」 古文入門「児のそら寝」 訓読の基本	- 引用歌や体験談に注意し、日本独特の桜に対する感性について理解を深める。 - 歴史的仮名遣いについて理解し、説話の面白さを読み取る。 - 漢文の特色や訓読の決まりを理解し、古典を学ぶ意味について考えを深める。	- 本文や引用歌の考察を踏まえ、筆者の桜への思いを読み取る。 - 文字や言葉の変化について理解を深め、古典の世界に親しみを持つ。 - 漢文訓読に関する基本的な知識や漢文の構造について理解する。
	期 末 考 査 小説「とんかつ」 随筆「奥山に、猫またいふものありて」 故事成語「五十歩百歩」	- 登場人物の心理を読み取り、題名を考慮に入れて主題を考える。 - 随筆に表れた作者の考えを、叙述を基に的確に捉える。 - 故事英語に興味を持ち、故事成語が日本語において果たす役割を理解する。	- 言動の描写に着目し、登場人物の心情とその変化を読み取る。 - 作者が伝えたことや自分の考えをどうまとめているか、考える。 - 故事成語の元になった話を読むことを通して、漢文訓読に慣れ親しむ。
2 学 期	中間 考 査 詩歌「I was born」 随筆「うつくしきもの」 絶句と律詩一七首	- 散文詩を読み、生命への思いを深く味わう。 - 作品の内容を自分と関連づけながら、ものの見方、感じ方、考え方を深める。 - 漢詩に描かれた情景や心情を読み取り、優れた表現に親しむ。	- 詩や題名に込められた作者の思いについて考える。 - 古今異義語を軸に、ものの見方、感じ方、考え方を捉える。 - 詩形と押韻を確認し、表現の仕方や特色を理解する。
	期 末 考 査 小説「羅生門」 物語「芥川」 論語一八章	- 極限状態にある登場人物の心情の変化を、展開に即して読み取る。 - 作品や文章の成立した背景を踏まえ、内容の理解を深める。 『論語』に表れているものの見方や考え方について理解し、心を豊かにする。	- 登場人物の内面の変化から、主題を考えて自分の考えを整理する。 - 歌物語の特徴や表現の仕方を理解し、歌を中心に、心情の推移を読み取る。 - 孔子の考え方を知り、孔子の思想に興味を持つ。
3 学 期	学 年 末 考 査 小説「デューク」 物語「筒井筒」 史話「曹公戦於白馬」	- 主人公の心情の変化を読み取り、細かい表現に注意して話の展開を捉える。 - 歌物語に描かれている内容を、叙述を基に的確に捉える。 - 登場人物の生き方や考え方を読み取り、史話の面白さを味わう。	- 登場人物の言動の注目し、心情を理解する。 - 本文に即して人物像を捉え、歌に託された思いを読み取る。 - 脚注を参照しながら、話の展開に即して内容を理解する。
取 組 の ア ド バ イ ス	○授業の取組 1 関心を持ち、主体的に取り組む。 2 自分の考えや思いを言葉にする。 ○家庭学習 1 予習・復習をする。 2 時事問題に関心を持ち、新聞を読んだりニュースを見たりする。 ○定期考査の勉強 1 教科書・ノートを用いて、授業の内容を確認する。 2 プリントの見直しをする。 ○その他のアドバイス 1 日頃から文学作品に親しむ。 2 夏休み明けには読書感想文を提出する。		
評 価 方 法	3つの観点別学習状況の評価の達成度をもとにして、総合的に評価します。（100点法）		
	知識・技能	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができる。（40点）	
	思考・判断・表現	「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。（30点）	
	主体的に学習に取り組む態度	言葉が持つ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を持ち、言葉を通して他者や社会に関わりようとしている。（30点）	

単位数	2	普通科・2年（I型）	履修	必修・選択
教科書	新編文学国語（大修館書店）		副教材等	
学習の到達目標		授業の進め方	履修の条件・進路	
1 近代以降のさまざまな文章に触れ、国語力を養う。 2 作者の感性を読み取ると同時に自分自身の感受性や想像力を豊かにする。 3 文学作品を読む楽しさを知り、人生を豊かにする。		小説、詩、短歌等を講義形式やグループ学習によって進める。	全員が履修する。	

	学 習 内 容	学習のポイント	学習の到達目標
1 学期	中間 考査 名作を読む 「山月記」 詩を味わう 「永訣の朝」	・登場人物の心情の推移を的確に捉え、物語の展開を味わう。 ・詩に表された作者の心情を読み味わう。	・登場人物の生き方から、自分自身の生き方に関する考えを深める。 ・詩における文体の特徴や表現の技法を理解する。
	期末 考査 明日をひらく 「少なくとも最後まで歩かなかった」 小説を楽しむ 「晴れた空の下で」	・筆者が大切だと考えていることを読み取り、理解する。 ・本文の描写や言葉遣いから、主人公の性格や心情を捉える。	・筆者の考えと比較しながら、自分の生き方について考えを深める。 ・情景の豊かさ、心情の機微を表す語句に注目し語彙を豊かにする。
2 学期	中間 考査 明日をひらく 「そとみとなかみ」 古典の世界 「星取り」	・筆者のいう「外側」と「内側」を理解し、外側と内側の関係について考える。 ・展開を捉える中で、話の面白さを味わう。	・「外側と内側」のように物事を対比してとらえ、認識を深める。 ・現代の作品や他の古典作品との比較から「笑い」について考える。
	期末 考査 表現を味わう 「柿」 「ぼくのお母さん」	・構成や表現の工夫を読み取り、文章の多様性を味わう。 ・言葉の持つ力、文学の表現の多彩さについて考える。	・他者の考えや意見を参考にしながら、語り手の視点や場面の設定の仕方、表現の特色について理解する。
3 学期	学年 末 考査 社会に生きる 「神去なあなあ日常」 古典の世界 「かぐや姫の昇天」	・人物像を捉え、場面ごとの心情を読み取る。 ・かぐや姫の心情とその変化を読み取る。	・仕事や自然に対する描写を読み取り、ものの見方、感じ方を豊かにする。 ・当時の人々が「月」に対してどのような思いをもっていたのか意見交換をする。
取組 の ア ド バ イ ス	○授業の取組 1 板書を中心に独自のノートを作る。 2 自分の考えを持ち、発表する。 ○家庭学習 1 ノートに本文を書写し、分からない語句を調べ、口語訳する。 2 音読する。 ○定期考査の勉強 1 教科書、ノート等で復習する。 2 ワークの問題を解く。 3 ノートにまとめ直す。 4 友人間で問題を出し合う。 ○その他 何事もよく考え、よく調べ、自主的に取り組む。他者と協力する。		
評 価 方 法	3つの観点別学習状況の評価の達成度をもとにして、総合的に評価します。（100点法）		
	知識・技能	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。	
	思考・判断・表現	深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	
	主体的に学習に取り組む態度	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。	

北高シラバス 「 文学国語 」

単位数	2	普通科・2年（Ⅱ型 文系）	履修	必修・選択
教科書	高等学校 文学国語（第一学習社）		副教材等	
学習の到達目標		授業の進め方	履修の条件・進路	
1 近代以降のさまざまな文章に触れ、国語力を養う。 2 作者の感性を読み取ると同時に自分自身の感受性や想像力を豊かにする。 3 文学作品を読む楽しさを知り、人生を豊かにする。		小説、詩、短歌等を講義形式やグループ学習によって進める。	全員が履修する。	

	学 習 内 容		学習のポイント	学習の到達目標
1 学 期	中間 考 査	近代の小説（一） 「山月記」 近代の詩 「永訣の朝」	・登場人物の心情の推移を的確に捉え、ストーリーの展開を味わう。 ・自然の描かれ方に注目し、心情を想像しながら味わう。	・主人公の心理、生き方について、グループで話し合う。 ・詩における文体の特徴や表現の技法を理解する。
	期末 考 査	現代の小説（一） 「旅する本」 随想（一） 「真珠の耳飾りの少女」	・登場人物の心情変化を時系列に沿って読み取る。 ・読み手の関心を引きつけるための工夫について考える。	・短編小説の特色を理解し、登場人物の変化を読み取る。 ・紹介文を読み、筆者の工夫点について話し合う。
2 学 期	中間 考 査	読み比べ 「フェルメールの技を読む」 近代の小説（二） 「こころ」	・読み比べによって、文体の特徴や効果について考察する方法を学ぶ。 ・登場人物の心情の推移を捉え、エゴイズムについて考える。	・対談形式の文章から、対象への向き合い方の違いを読み取る。 ・主人公の生き方から、人間としての在り方、生き方を考える。
	期末 考 査	近代の小説（二） 「葉桜と魔笛」 戦争と文学（一） 「わたしが一番きれいだったとき」	・語られる出来事を整理し、「手紙」に込められた真実に迫る。 ・詩の構成の意図を考え、過去と後半生に対する心情を読み取る。	・語りの特徴がもたらしている効果を把握しながら読む。 ・時代背景を理解し、表現上の効果や戦争に対する心情を理解する。
3 学 期	学年 末 考 査	戦争と文学（一） 「バグダッドの靴磨き」 「死んだ男の残したものは」	・主人公の生き方を通して、人間や平和について考えを深める。 ・リズムとつながりを意識しながら、作品に託された思いを読み取る。	・登場人物の関係性や心情を把握し、背景にあるものを理解する。 ・ベトナムの平和を願う反戦詩として書かれた背景を踏まえ、主題を理解する。
取組 の ア ド バ イ ス	○授業の取組 1 板書を中心に独自のノートを作る。 2 自分の考えを持ち、発表する。 ○家庭学習 1 ノートに本文を書写し、分からない語句を調べ、口語訳する。 2 音読する。 ○定期考査の勉強 1 教科書、ノート等で復習する。 2 ワークの問題を解く。 3 ノートにまとめ直す。 4 友人間で問題を出し合う。 ○その他 何事もよく考え、よく調べ、自主的に取り組む。他者と協力する。			
評 価 方 法	3つの観点別学習状況の評価の達成度をもとにして、総合的に評価します。（100点法）			
	知識・技能	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。		
	思考・判断・表現	深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。		
	主体的に学習に取り組む態度	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わりとうとする態度を養う。		

単位数	2	生産食品科・2年	履修	必修・選択
教科書	新編文学国語（大修館書店）		副教材等	
学習の到達目標		授業の進め方	履修の条件・進路	
1 近代以降のさまざまな文章に触れ、国語力を養う。 2 作者の感性を読み取ると同時に自分自身の感受性や想像力を豊かにする。 3 文学作品を読む楽しさを知り、人生を豊かにする。		小説、詩、短歌等を講義形式やグループ学習によって進める。	全員が履修する。	

	学 習 内 容		学習のポイント	学習の到達目標
1 学 期	中間 考 査	名作を読む 「山月記」 詩を味わう 「永訣の朝」	・登場人物の心情の推移を的確に捉え、物語の展開を味わう。 ・詩に表された作者の心情を読み味わう。	・登場人物の生き方から、自分自身の生き方に関する考えを深める。 ・詩における文体の特徴や表現の技法を理解する。
	期 末 考 査	明日をひらく 「少なくとも最後まで歩かなかった」 小説を楽しむ 「晴れた空の下で」	・筆者が大切だと考えていることを読み取り、理解する。 ・本文の描写や言葉遣いから、主人公の性格や心情を捉える。	・筆者の考えと比較しながら、自分の生き方について考えを深める。 ・情景の豊かさ、心情の機微を表す語句に注目し語彙を豊かにする。
2 学 期	中間 考 査	明日をひらく 「そとみとなかみ」 古典の世界 「星取り」	・筆者のいう「外側」と「内側」を理解し、外側と内側の関係について考える。 ・展開を捉える中で、話の面白さを味わう。	・「外側と内側」のように物事を対比してとらえ、認識を深める。 ・現代の作品や他の古典作品との比較から「笑い」について考える。
	期 末 考 査	表現を味わう 「柿」 「ぼくのお母さん」	・構成や表現の工夫を読み取り、文章の多様性を味わう。 ・言葉の持つ力、文学の表現の多彩さについて考える。	・他者の考えや意見を参考にしながら、語り手の視点や場面の設定の仕方、表現の特色について理解する。
3 学 期	学 年 末 考 査	社会に生きる 「神去なあな日常」 古典の世界 「かぐや姫の昇天」	・人物像を捉え、場面ごとの心情を読み取る。 ・かぐや姫の心情とその変化を読み取る。	・仕事や自然に対する描写を読み取り、ものの見方、感じ方を豊かにする。 ・当時の人々が「月」に対してどのような思いをもっていたのか意見交換をする。
取組 の ア ド バ イ ス	○授業の取組 1 板書を中心に独自のノートを作る。 2 自分の考えを持ち、発表する。 ○家庭学習 1 ノートに本文を書写し、分からない語句を調べ、口語訳する。 2 音読する。 ○定期考査の勉強 1 教科書、ノート等で復習する。 2 ワークの問題を解く。 3 ノートにまとめ直す。 4 友人間で問題を出し合う。 ○その他 何事もよく考え、よく調べ、自主的に取り組む。他者と協力する。			
評 価 方 法	3つの観点別学習状況の評価の達成度をもとにして、総合的に評価します。（100点法）			
	知識・技能	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。		
	思考・判断・表現	深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。		
	主体的に学習に取り組む態度	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。		

単位数	2	普通科・2年（Ⅱ型 文系・理系）	履修	必修・選択
教科書	高等学校 標準 論理国語（第一学習社）		副教材等	
学習の到達目標		授業の進め方	履修の条件・進路	
1 近代以降のさまざまな文章に触れ、国語力を養う。 2 論理的な文章に親しみ、思考力、判断力を高める。 3 文章の内容を自己の思考に反映させる。		論理的な文章を講義形式やグループ学習によって進める。	全員が履修する。	

	学 習 内 容	学習のポイント	学習の到達目標
1 学 期	新しい発見 「新しい地球観」	・オーサグラフ地図の特徴を捉え、筆者の主張を読み取る。	・筆者が述べる「新しい世界観」との関連について考察する。
	言葉と文化 「数え方で磨く日本語」	・具体例をもとに、表現の仕方から日本語の特徴を考える。	・日本語のものの数え方の性質や文化的特徴を理解し、日本語感覚を磨く。
2 学 期	生活の中の表現 「情けは人の……」 「犬も歩けば棒に当たる」	・本文中に示された言葉の正しい意味を知る。 ・一つのことわざについて提示された複数の解釈を理解する。	・言葉に対する筆者の姿勢を読み取る。 ・日本語の多様性について理解を深める。
	言葉と文化 「名所絵はがきの東西」 人間と文化 「ヒトはなぜヒトになったか」	・絵はがきを例に筆者が東西の自然観をどのように捉えているかを把握する。 ・因果関係を解き明かしていく論理構成に注目する。	・筆者の主張を踏まえ、日本人の自然観について自分の考えをまとめる。 ・論理構成の手順を把握し、ヒトの進化の過程を理解する。
3 学 期	自己と社会 「共同性の幻想」 「鏡としての他者」	・「同調圧力」がはたらく社会的背景を理解する。 ・文章構造をもとに筆者の主張を読み取る。	・社会的背景をふまえ、現代の人間関係のあり方を考察する。 ・他者が自己に与える影響を考える。
	実用文 「法に関わる文章を読み比べる」 「ボランティアへの参加を伝えるメールの文章を検討する」	・実用的な文章の読み比べ、情報の読み取り方や関連性の見つけ方を知る。 ・実用文の書き方やルールを調べる。	・実用的な文章を比較し、両者を関連づけて解釈する方法を見つける。 ・実用文のルールや TPO に応じた書き方の工夫を習得する。
取組 の ア ド バ イ ス	○授業の取組 1 板書を中心に独自のノートを作る。 2 自分の考えを持ち、発表する。 ○家庭学習 1 ノートに本文を書写し、分からない語句を調べ、口語訳する。 2 音読する。 ○定期考査の勉強 1 教科書、ノート等で復習する。 2 ワークの問題を解く。 3 ノートにまとめ直す。 4 友人間で問題を出し合う。 ○その他 何事もよく考え、よく調べ、自主的に取り組む。他者と協力する。		
評 価 方 法	3つの観点別学習状況の評価の達成度をもとにして、総合的に評価します。（100点法）		
	知識・技能	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。	
	思考・判断・表現	論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	
	主体的に学習に取り組む態度	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。	

北高シラバス 「 論理国語 」

単位数	2	普通科・3年（Ⅱ型 文系・理系）	履修	必修・選択
教科書	高等学校 標準 論理国語（第一学習社）		副教材等	
学習の到達目標		授業の進め方	履修の条件・進路	
1 近代以降のさまざまな文章に触れ、国語力を養う。 2 論理的な文章に親しみ、思考力、判断力を高める。 3 文章の内容を自己の思考に反映させる。		論理的な文章を講義形式やグループ学習によって進める。	全員が履修する。	

	学 習 内 容		学習のポイント	学習の到達目標
1 学 期	中間 考 査	人間と社会 「コミュニケーションの文化」	・文章構成や事例をもとに筆者の主張を把握する。	・対比から日本の課題を捉え、何が必要かを考える。
	期末 考 査	現代と社会 「支え合うことの意味」 現代と社会 「科学技術は暴走しているか」 新しい視点 「哲学的思考とは何か」	・抽象的な表現の意味を把握し、筆者の述べる「自立」について理解する。 ・AI やロボットの技術の現状や日本における捉え方、科学技術との向き合い方を考える。 ・内容を正確に把握し、「哲学的思考」の方法を理解する。	・論点を確認し、表題に関する自身の考えを深める。 ・筆者の述べる根拠や論拠を批判的に検討する。 ・具体例や言い換えに留意し、問題点について話し合う。
2 学 期	中間 考 査	人間と社会 「SNSと意見の分極化」	・フェイクニュースの社会的問題に関する論理展開を把握する。	・見聞したことや調べたことから、SNS への向き合い方に関して自身の考えを深める。
	期末 考 査	生への思索 「僕らの時代のメディアリテラシー」 生活と自然 「カブトムシから考える里山と物質循環」 「クマを変えてしまう人間」	・市場原理の主体とメディアとの関係について考えを深める。 ・自然の社会化という視点から考察した筆者の論理を読み解く。 ・猟に関する文章から人間の活動と自然との関係について理解を深める。	・主張の要点を理解し、情報の送り手と受け手の関係を考える。 ・人間と自然との関わりの変化に注目して複数の文章を読み比べる。 ・自分の考えの変化について言語化する。
3 学 期	学年 末 考 査	生への思索 「経験の教えについて」 推論 「推論とは何か」 小論文を書く	・「経験の教え」について自分に引き付けて考えを深める。 ・推論の方法について理解し、活用する方法を学ぶ。	・寓話について調べ、論理展開を把握するとともに、自身の考えをまとめる。 ・文章の妥当性や信頼性を吟味する。
取組 の ア ド バ イ ス	○授業の取組 1 板書を中心に独自のノートを作る。 2 自分の考えを持ち、発表する。 ○家庭学習 1 ノートに本文を書写し、分からない語句を調べ、口語訳する。 2 音読する。 ○定期考査の勉強 1 教科書、ノート等で復習する。 2 ワークの問題を解く。 3 ノートにまとめ直す。 4 友人間で問題を出し合う。 ○その他 1 何事もよく考え、よく調べ、自主的に取り組む。 2 他者と協力する。			
評 価 方 法	3つの観点別学習状況の評価の達成度をもとにして、総合的に評価します。（100点法）			
	知識・技能	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。		
	思考・判断・表現	論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。		
	主体的に学習に取り組む態度	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。		

単位数	2	普通科・3年（Ⅰ型）	履修	必修・選択
教科書	新編文学国語（大修館書店）		副教材等	
学習の到達目標		授業の進め方		履修の条件・進路
1 近代以降のさまざまな文章に触れ、国語力を養う。 2 作者の感性を読み取ると同時に自分自身の感受性や想像力を豊かにする。 3 文学作品を読む楽しさを知り、人生を豊かにする。		小説、詩、短歌等を講義形式やグループ学習によって進める。		全員が履修する。

	学 習 内 容		学習のポイント	学習の到達目標
1 学 期	中間 考 査	心を見つめる 「クルミの小部屋」 小説を楽しむ 「待合室」	・筆者の家族観や、家族間の心情の機微を読み取る。 ・登場人物の視点や表現の特色に注目し、その働きを意識しながら読む。	・文体の特徴や比喩の効果について考える。 ・登場人物の考え方を捉え、自分の考えと比較しながら自分の考えを広げる。
	期 末 考 査	小説を楽しむ 「おぼろ月」 古典の世界 「桐壺」 文化を感じる 「夏の月」	・登場人物の考え方や生き方について、時代背景を踏まえて考える。 ・登場人物の設定や描写の仕方を捉え、読みを深める。 ・筆者の考える「夏の月」の良さを捉える。	・特徴的な表現に注目しながら作品を読み味わう。 ・日本を代表する『源氏物語』について調べ、あらすじを理解する。 ・引用された作品を読み、解釈を深める。
2 学 期	中間 考 査	文化を感じる 「共感と驚異」 短歌・俳句に親しむ 「短歌」「俳句」「恋のうた」 「俳句を作ろう」	・筆者の考える、短歌が人を感動させたための方法を読み取る。 ・情景や作者の心情を考えながら読み味わう。	・引用された作品を読み、筆者の主張を理解する。 ・形式や表現に注意して短歌・俳句を読み味わい、創作につなげる。
	期 末 考 査	名作を読む 「こころ」	・登場人物の生き方から、自分自身の生き方に関する考えを深める。	・優れた表現に触れ、「私」の心情の変化を追う中で、人間の深い部分について考える。
3 学 期	学 年 末 考 査	心を見つめる 「飛ぶことを知っている魂」 古典の世界 「四面楚歌」 文学を生み出す 「私たちの黄色」 「タイムリミット」	・具体例をもとに、筆者のメッセージを読み取る。 ・現在「四面楚歌」がどのような意味で用いられているか調べる。 ・文学的な文章やそれに関する文章の種類や特徴などについて理解を深める。	・文体の特徴や表現に注目し、その効果を考える。 ・漢文の表現に着目し、項王の心情を読み取る。 ・様々な小説を読み、構成や表現の工夫を読み取る。
取 組 の ア ド バ イ ス	○授業の取組 1 板書を中心に独自のノートを作る。 2 自分の考えを持ち、発表する。 ○家庭学習 1 ノートに本文を書写し、分からない語句を調べ、口語訳する。 2 音読する。 ○定期考査の勉強 1 教科書、ノート等で復習する。 2 ワークの問題を解く。 3 ノートにまとめ直す。 4 友人間で問題を出し合う。 ○その他 1 何事もよく考え、よく調べ、自主的に取り組む。 2 他者と協力する。			
評 価 方 法	3つの観点別学習状況の評価の達成度をもとにして、総合的に評価します。（100点法）			
	知識・技能	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。		
	思考・判断・表現	深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。		
	主体的に学習に取り組む態度	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。		

単位数	2	普通科・3年（Ⅱ型 文系）	履修	必履修・選択
教科書	高等学校 文学国語（第一学習社）		副教材等	
学習の到達目標		授業の進め方	履修の条件・進路	
1 近代以降のさまざまな文章に触れ、国語力を養う。 2 作者の感性を読み取ると同時に自分自身の感受性や想像力を豊かにする。 3 文学作品を読む楽しさを知り、人生を豊かにする。		小説、詩、短歌等を講義形式やグループ学習によって進める。	全員が履修する。	

	学 習 内 容	学習のポイント	学習の到達目標
1 学 期	中間 考 査 随想 「わからないからおもしろい」 近代の詩 「足と心」 「ちがう人間ですよ」	・青年と筆者の考えの差を整理し、仕事への思いを理解する。 ・構成や表現の特色をつかみ、詩に託されたメッセージを読み取る。	・共感できる意見とその根拠を説明する。 ・成立背景を調べ、文体の特徴や表現技法を理解する。
	期末 考 査 近代の小説 「枯野抄」	・芭蕉の臨終に際して弟子たちが抱く心情を把握し、人生や他者に対する考察を深める。	・他者との関係性の中で変化する心情の読み取りを通して人間の本質について考える。
2 学 期	中間 考 査 近代の小説 「舞姫」	・文体や表現の特徴を意識し、豊太郎の語る内容を多角的に解釈する。	・登場人物に対する考えを深めるとともに、自己の生き方について考える。
	期末 考 査 現代の小説 「骰子の七の目」	・作中世界の異常さを意識しながら、小説の批判精神を読み取る。	・物事の本質を知ろうとすること、多様な価値観を尊重することの重要性を理解する。
3 学 期	学 年 末 考 査 創作をする 「短歌・俳句を作る」 「物語を創造する」	・表現や技法に注意して創作する。 ・ものの見方、感じ方、考え方を豊かにする。	・言葉を紡ぎ、独創性を磨く。 ・相互批評から課題を見つける。
取 組 の ア ド バ イ ス	○授業の取組 1 板書を中心に独自のノートを作る。 2 自分の考えを持ち、発表する。 ○家庭学習 1 ノートに本文を書写し、分からない語句を調べ、口語訳する。 2 音読する。 ○定期考査の勉強 1 教科書、ノート等で復習する。 2 ワークの問題を解く。 3 ノートにまとめ直す。 4 友人間で問題を出し合う。 ○その他 何事もよく考え、よく調べ、自主的に取り組み、他者と協力する。		
評 価 方 法	3つの観点別学習状況の評価の達成度をもとにして、総合的に評価します。（100点法）		
	知識・技能	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。	
	思考・判断・表現	深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	
	主体的に学習に取り組む態度	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わりとうとする態度を養う。	

単位数	2	生産食品科・3年	履修	必修・選択
教科書	新編文学国語（大修館書店）		副教材等	
学習の到達目標			授業の進め方	履修の条件・進路
1 近代以降のさまざまな文章に触れ、国語力を養う。 2 作者の感性を読み取ると同時に自分自身の感受性や想像力を豊かにする。 3 文学作品を読む楽しさを知り、人生を豊かにする。			小説、詩、短歌等を講義形式やグループ学習によって進める。	全員が履修する。

	学 習 内 容	学習のポイント	学習の到達目標
1 学 期	中間 考 査 心を見つめる 「クルミの小部屋」 小説を楽しむ 「待合室」	・筆者の家族観や、家族間の心情の機微を読み取る。 ・登場人物の視点や表現の特色に注目し、その働きを意識しながら読む。	・文体の特徴や比喩の効果について考える。 ・登場人物の考え方を捉え、自分の考えと比較しながら自分の考えを広げる。
	期 末 考 査 小説を楽しむ 「おぼろ月」 古典の世界 「桐壺」 文化を感じる 「夏の月」	・登場人物の考え方や生き方について、時代背景を踏まえて考える。 ・登場人物の設定や描写の仕方を捉え、読みを深める。 ・筆者の考える「夏の月」の良さを捉える。	・特徴的な表現に注目しながら作品を読み味わう。 ・日本を代表する『源氏物語』について調べ、あらすじを理解する。 ・引用された作品を読み、解釈を深める。
2 学 期	中間 考 査 文化を感じる 「共感と驚異」 短歌・俳句に親しむ 「短歌」「俳句」「恋のうた」 「俳句を作ろう」	・筆者の考える、短歌が人を感動させたための方法を読み取る。 ・情景や作者の心情を考えながら読み味わう。	・引用された作品を読み、筆者の主張を理解する。 ・形式や表現に注意して短歌・俳句を読み味わい、創作につなげる。
	期 末 考 査 名作を読む 「こころ」	・登場人物の生き方から、自分自身の生き方に関する考えを深める。	・優れた表現に触れ、「私」の心情の変化を追う中で、人間の深い部分について考える。
3 学 期	学 年 末 考 査 心を見つめる 「飛ぶことを知っている魂」 古典の世界 「四面楚歌」 文学を生み出す 「私たちの黄色」 「タイムリミット」	・具体例をもとに、筆者のメッセージを読み取る。 ・現在「四面楚歌」がどのような意味で用いられているか調べる。 ・文学的な文章やそれに関する文章の種類や特徴などについて理解を深める。	・文体の特徴や表現に注目し、その効果を考える。 ・漢文の表現に着目し、項王の心情を読み取る。 ・さまざまな小説を読み、構成や表現の工夫を読み取る。
取 組 の ア ド バ イ ス	○授業の取組 1 板書を中心に独自のノートを作る。 2 自分の考えを持ち、発表する。 ○家庭学習 1 ノートに本文を書写し、分からない語句を調べ、口語訳する。 2 音読する。 ○定期考査の勉強 1 教科書、ノート等で復習する。 2 ワークの問題を解く。 3 ノートにまとめ直す。 4 友人間で問題を出し合う。 ○その他 1 何事もよく考え、よく調べ、自主的に取り組む。 2 他者と協力する。		
評 価 方 法	3つの観点別学習状況の評価の達成度をもとにして、総合的に評価します。（100点法）		
	知識・技能	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。	
	思考・判断・表現	深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	
	主体的に学習に取り組む態度	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わりとうとする態度を養う。	

単位数	2	普通科・2年（I型）	履修	☒ 必修・選択
教科書	国語表現（大修館書店）		副教材等	
学習の到達目標		授業の進め方	履修の条件・進路	
1 伝え合い、分かり合うための表現活動を中心に、コミュニケーションの基本的な力を身に付けさせる。 2 自分の考えを持ち、的確に説得力を持って表現できる文章力を育成する。 3 社会・文化へ積極的にかかわりながら、自己確立に向けて主体的に生きる力を育成する。		1 文章の書き方を練習する。 2 グループでの話し合いや意見文の在り方を学ぶ。 3 現代社会の問題点に目を向けるとともに、自己理解に努める。	全員が履修する。	

	学 習 内 容		学習のポイント	学習の到達目標
1 学 期	中間 考 査	表現を楽しむ 伝える、伝え合う 1 自己紹介ゲーム 2 言葉のストレッチ体操	・言葉で伝え合うことを楽しみ、対話活動に前向き・積極的に取り組む。	・自己紹介のやりとりをとおして、相互理解を図る。 ・内容や話し方を工夫して、わかりやすい自己紹介をする。
	期 末 考 査	表現を楽しむ 伝える、伝え合う 3 絵や写真を見て書く 4 マイニュース記事を書こう	・絵や写真を文字にして相手に伝えるための工夫をする。 ・身近なテーマを見つけ、積極的に取り組む。	・相手に伝えることを意識してわかりやすい文章を書く。 ・5W1Hを意識し、事実と意見を区別してニュース記事を書く。
2 学 期	中間 考 査	表現を楽しむ 言葉と出会う 1 言葉と表記 2 整った文を書く 3 相手に応じた言葉遣い	・相手に伝えることを意識してわかりやすい文章を書く。	・主述の関係、副詞の呼応、文末表現の統一、話し言葉と書き言葉の違いなど、整った文を書くために大切なことを理解する。
	期 末 考 査	表現を楽しむ 言葉と出会う 4 わかりやすい文を書く 5 文のつなぎ方	・長すぎる文を避け、わかりやすい文にする方法を理解する。	・書くことや言葉の使い分けに関する文章を読み、自らの表現に生かす。
3 学 期	学 年 末 考 査	表現を楽しむ メディアを駆使する	・メディアについて書かれた文章や資料を読み、考えたことを話し合ったり、文章にまとめたりする。	・さまざまな通信文の形式を理解する。 ・メディアにより立場や条件、情報の伝え方が異なることを理解する。
取組 の ア ド バ イ ス	○授業の取組 1 教科書等教材を持参する。 2 主体的に活動に取り組む。 3 大きな声で返事・発言する。 ○家庭学習 1 宿題を励行する。 2 新聞を読む。 ○定期考査の勉強 1 教科書の内容を確認する。 2 授業時のアドバイスを確認する。 ○その他のアドバイス 1 新聞等から多くの情報を収集すること。 2 自分の考えを持ち、他人と話すこと。			
評 価 方 法	3つの観点別学習状況の評価の達成度をもとにして、総合的に評価します。（100点法）			
	知識・技能	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。		
	思考・判断・表現	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、実社会における他者との多様な関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。		
	主体的に学習に取り組む態度	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。		

単位数	2	生産食品科・2年	履修	必修・選択
教科書	国語表現（大修館書店）		副教材等	
学習の到達目標			授業の進め方	履修の条件・進路
1 伝え合い、分かり合うための表現活動を中心に、コミュニケーションの基本的な力を身に付けさせる。 2 自分の考えを持ち、的確に説得力を持って表現できる文章力を育成する。 3 社会・文化へ積極的ににかかわりながら、自己確立に向けて主体的に生きる力を育成する。			1 文章の書き方を練習する。 2 グループでの話し合いや意見文の在り方を学ぶ。 3 現代社会の問題点に目を向けるとともに、自己理解に努める。	全員が履修する。

	学 習 内 容		学習のポイント	学習の到達目標
1 学 期	中間 考 査	表現を楽しむ 伝える、伝え合う 1 自己紹介ゲーム 2 言葉のストレッチ体操	・言葉で伝え合うことを楽しみ、対話活動に前向き・積極的に取り組む。	・自己紹介のやりとりをとおして、相互理解を図る。 ・内容や話し方を工夫して、わかりやすい自己紹介をする。
	期末 考 査	表現を楽しむ 伝える、伝え合う 3 絵や写真を見て書く 4 マイニュース記事を書こう	・絵や写真を文字にして相手に伝えるための工夫をする。 ・身近なテーマを見つけ、積極的に取り組む。	・相手に伝えることを意識してわかりやすい文章を書く。 ・5W1Hを意識し、事実と意見を区別してニュース記事を書く。
2 学 期	中間 考 査	表現を楽しむ 言葉と出会う 1 言葉と表記 2 整った文を書く 3 相手に応じた言葉遣い	・相手に伝えることを意識してわかりやすい文章を書く。	・主述の関係、副詞の呼応、文末表現の統一、話し言葉と書き言葉の違いなど、整った文を書くために大切なことを理解する。
	期末 考 査	表現を楽しむ 言葉と出会う 4 わかりやすい文を書く 5 文のつながり方	・長すぎる文を避け、わかりやすい文にする方法を理解する。	・書くことや言葉の使い分けに関する文章を読み、自らの表現に生かす。
3 学 期	学年 末 考 査	表現を楽しむ メディアを駆使する	・メディアについて書かれた文章や資料を読み、考えたことを話し合ったり、文章にまとめたりする。	・さまざまな通信文の形式を理解する。 ・メディアにより立場や条件、情報の伝え方が異なることを理解する。
取組 の ア ド バ イ ス	○授業の取組 1 教科書等教材を持参する。 2 主体的に活動に取り組む。 3 大きな声で返事・発言する。 ○家庭学習 1 宿題を励行する。 2 新聞を読む。 ○定期考査の勉強 1 教科書の内容を確認する。 2 授業時のアドバイスを確認する。 ○その他のアドバイス 1 新聞等から多くの情報を収集すること。 2 自分の考えを持ち、他人と話すこと。			
評 価 方 法	3つの観点別学習状況の評価の達成度をもとにして、総合的に評価します。（100点法）			
	知識・技能	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。		
	思考・判断・表現	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、実社会における他者との多様な関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。		
	主体的に学習に取り組む態度	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。		

単位数	2	普通科・3年（I型）	履修	必履修・選択
教科書	国語表現（大修館書店）		副教材等	
学習の到達目標		授業の進め方	履修の条件・進路	
1 伝え合い、分かり合うための表現活動を中心に、コミュニケーションの基本的な力を身に付けさせる。 2 自分の考えを持ち、的確に説得力を持って表現できる文章力を育成する。 3 社会・文化へ積極的に関わりながら、自己確立に向けて主体的に生きる力を育成する。		1 文章の書き方を練習する。 2 グループでの話し合いや意見文の在り方を学ぶ。 3 現代社会の問題点に目を向けるとともに、自己理解に努める。	全員が履修する。	

	学 習 内 容	学習のポイント	学習の到達目標
1 学 期	表現力を培う 自己PRと面接 1 自分を見つめて 2 効果的な自己PR 3 志望理由書を書こう 働く人にインタビュー 無人島で生き残れ	- これまでの人生を振り返ってまとめる。 - 自分の思いや考えが伝わるよう、話の構成や展開を工夫する。 - 視点を明確にして聞く。 - 話し合いのしかたや結論の出し方を工夫する。	- 経験から得たことや学んだこと、自分の長所などを考える。 - 学習内容をふまえて、効果的な自己PRや志望理由を考える。 - 積極的に話し合いに参加し、他者の意見を尊重しつつ自分の意見を適切に述べる。
2 学 期	表現力を培う 小論文・レポート入門 会話・議論・発表 1 相手や場面に応じた会話 「私の虫類図鑑」を作ろう 魅力的なホスターを作ろう	- 社会問題や自分に関わる事柄について、伝えたいことを明確にする。 - 目的や場面、相手、手段に応じた適切な表現や言葉遣いをする。 - 受け手の共感が得られるよう、構成や展開を工夫する。	- 小論文の基本的な書き方を理解する。 - 場面にふさわしい言葉遣いを考える。 - レイアウトやデザインを工夫してホスターを作る。
3 学 期	表現力を培う 会話・議論・発表 2 建設的な議論の進め方 3 スピーチをしよう 4 プレゼンテーションの工夫 みんなで作ろう国語辞典	- 論点を明確にして自分の考えと比較しながら聞く。 - 聞き取った情報を吟味して自分の考えを広げたり深めたりする。 - 情報を収集、整理して、伝え合う内容を検討する。 - 言葉の定義を書き、国語辞典を作成する。	- 話し合いに積極的に参加し、結論を出すために貢献する。 - 話し手が話しやすい聞き方をする。 - 聞き手の興味を引くような工夫をし、わかりやすく発表する。 - 辞書に親しみをもち、言葉を意識し、語彙を広げる。
取組 の ア ド バ イ ス	○授業の取組 1 教科書等教材を持参する。 2 主体的に活動に取り組む。 3 大きな声で返事・発言する。 ○家庭学習 1 宿題を励行する。 2 新聞を読む。 ○定期考査の勉強 1 教科書の内容を確認する。 2 授業時のアドバイスを確認する。 ○その他のアドバイス 1 新聞等から多くの情報を収集すること。 2 自分の考えを持ち、他人と話すこと。		
評 価 方 法	3つの観点別学習状況の評価の達成度をもとにして、総合的に評価します。（100点法）		
	知識・技能	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。	
	思考・判断・表現	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、実社会における他者との多様な関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	
	主体的に学習に取り組む態度	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。	

北高シラバス 「 国語表現 」

単位数	2	生産食品科・3年	履修	必履修・選択
教科書	国語表現（大修館書店）		副教材等	
学習の到達目標		授業の進め方	履修の条件・進路	
1 伝え合い、分かり合うための表現活動を中心に、コミュニケーションの基本的な力を身に付けさせる。 2 自分の考えを持ち、的確に説得力を持って表現できる文章力を育成する。 3 社会・文化へ積極的にに関わりながら、自己確立に向けて主体的に生きる力を育成する。		1 文章の書き方を練習する。 2 グループでの話し合いや意見文の在り方を学ぶ。 3 現代社会の問題点に目を向けるとともに、自己理解に努める。	全員が履修する。	

	学 習 内 容	学習のポイント	学習の到達目標
1 学 期	表現力を培う 自己PRと面接 1 自分を見つめて 2 効果的な自己PR 3 志望理由書を書こう 働く人にインタビュー 無人島で生き残れ	- これまでの人生を振り返ってまとめる。 - 自分の思いや考えが伝わるよう、話の構成や展開を工夫する。 - 視点を明確にして聞く。 - 話し合いのしかたや結論の出し方を工夫する。	- 経験から得たことや学んだこと、自分の長所などを考える。 - 学習内容をふまえて、効果的な自己PRや志望理由を考える。 - 積極的に話し合いに参加し、他者の意見を尊重しつつ自分の意見を適切に述べる。
2 学 期	表現力を培う 小論文・レポート入門 会話・議論・発表 1 相手や場面に応じた会話 「私の虫類図譜」を作ろう 魅力的なポスターを作ろう	- 社会問題や自分に関わる事柄について、伝えたいことを明確にする。 - 目的や場面、相手、手段に応じた適切な表現や言葉遣いをする。 - 受け手の共感が得られるよう、構成や展開を工夫する。	- 小論文の基本的な書き方を理解する。 - 場面にふさわしい言葉遣いを考える。 - レイアウトやデザインを工夫してポスターを作る。
3 学 期	表現力を培う 会話・議論・発表 2 建設的な議論の進め方 3 スピーチをしよう 4 プレゼンテーションの工夫 みんなで作ろう国語辞典	- 論点を明確にして自分の考えと比較しながら聞く。 - 聞き取った情報を吟味して自分の考えを広げたり深めたりする。 - 情報を収集、整理して、伝え合う内容を検討する。 - 言葉の定義を書き、国語辞典を作成する。	- 話し合いに積極的に参加し、結論を出すために貢献する。 - 話し手が話しやすい聞き方をする。 - 聞き手の興味を引くような工夫をし、わかりやすく発表する。 - 辞書に親しみをもち、言葉を意識し、語彙を広げる。
取組 の ア ド バ イ ス	○授業の取組 1 教科書等教材を持参する。 2 主体的に活動に取り組む。 3 大きな声で返事・発言する。 ○家庭学習 1 宿題を励行する。 2 新聞を読む。 ○定期考査の勉強 1 教科書の内容を確認する。 2 授業時のアドバイスを確認する。 ○その他のアドバイス 1 新聞等から多くの情報を収集すること。 2 自分の考えを持ち、他人と話すこと。		
評 価 方 法	3つの観点別学習状況の評価の達成度をもとにして、総合的に評価します。（100点法）		
	知識・技能	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。	
	思考・判断・表現	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、実社会における他者との多様な関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	
	主体的に学習に取り組む態度	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。	

単位数	2	普通科・2年（Ⅱ型 文系・理系）	履修	必修 ・選択
教科書	精選古典探究(大修館書店)		副教材等	やさしくわかる古典文法
学習の到達目標		授業の進め方		履修の条件・進路
国語で適切かつ効果的に表現する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、言語感覚を磨き、進んで表現することによって国語の向上や社会生活の充実を図る態度を育てる。		1 講義形式を中心に進める。 2 調べ学習やグループワークも取り入れる。		1 全員が履修する。 2 四年制大学進学に適している。

	学 習 内 容		学習のポイント	学習の到達目標
1 学 期	中間 考 査	十訓抄 大江山いくのの道 徒然草 今日はそのことをな さんと思へど 故事・逸話 塞翁馬	・登場人物の言動と和歌の内容を読み取る。 ・登場人物の心情を読み取り、作者の批評について考察する。 ・漢文学習の基本を確認し、単純な説話の世界に触れ、漢文を読む魅力を味わう。	・説話文学の特徴を調べる。 ・古語について理解し、古語辞典を活用し、現代語訳する。 ・漢文学習の基本を確認し、単純な説話の世界に触れ、漢文を読む魅力を味わう。
	期 末 考 査	伊勢物語 初冠 大和物語 をばすて 史伝『史記』 鴻門の会	・和歌の意味に注目し、登場人物の心情を読み取る。 ・登場人物の心境の変化とそのきっかけを読み取る。 ・登場人物の行動と発言を読み取り、それぞれのはたらきをまとめる。	・歌物語の特色を理解する。 ・各地に伝わる娯楽伝説との比較を行う。 ・訓読し、登場人物と場面を読み取る。
2 学 期	中間 考 査	方丈記 安元の大火 今昔物語集 安倍晴明 史伝『史記』 項王の最期	・特徴的な表現を把握し、作者の主張を本文に即して読み取る。 ・古典文学と現代の小説や漫画を読み比べて、時代を超えて描かれる人物や話のおもしろさを味わう。 ・項王の詩にうたわれている心情を読み取る。	・時代背景にある末法思想、無常観について把握する。 ・『今昔物語集』と小説「陰陽師」、漫画「陰陽師」を読み比べ、表現の差を理解する。 ・訓読し、登場人物と場面を読み取る。
	期 末 考 査	枕草子 中納言参りたまひて 大鏡 比べ弓 漢詩一近体詩 竹里館 他	・語句の意味を辞書で確認し、挙げられた事例を読み取る。 ・人物関係、会話の内容を読み取る。 ・それぞれの詩に表現されている情景や心情を読み取る。	・作品・作者について調べる。 ・敬語・助動詞を確認する。 ・作者について、適宜調べる。
3 学 期	学 年 末 考 査	源氏物語 光源氏の誕生 平家物語 能登殿最期 思想 不忍人之心 人之性悪	・桐壺更衣を取り巻く状況について考える。 ・登場人物の立場、心情をまとめる。 ・戦いの様子や最後の場面の情景描写について話し合う。 ・性善説・性悪説について、それぞれの議論の巧みさを理解し、相違点をまとめる。	・源氏物語について調べるとともに、物語のその後のあらすじを調べる。 ・軍記物語らしい表現を味わいながら音読する。 ・句法に注意しながら訓読し、それぞれの論理展開を読み取る。
取 組 の ア ド バ イ ス	○授業の取組 1 板書を中心に独自のノートを作る。 2 自分の考えを持ち、発表する。 ○家庭学習 1 ノートに本文を書写し、分からない語句を調べ、口語訳する。 2 音読する。 ○定期考査の勉強 1 教科書、ノート等で復習する。 2 ワークの問題を解く。 3 ノートにまとめ直す。 4 友人間で問題を出し合う。 ○その他 何事もよく考え、よく調べ、自主的に取り組む。他者と協力する。			
評 価 方 法	3つの観点別学習状況の評価の達成度をもとにして、総合的に評価します。（100点法）			
	知識・技能	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにする。		
	思考・判断・表現	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通じた先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。		
	主体的に学習に取り組む態度	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わりようとする態度を養う。		

単位数	2	普通科・3年（Ⅱ型 文系・理系）	履修	必履修・選択
教科書	精選古典探究(大修館書店)		副教材等	やさしくくわしい古典文法
学習の到達目標		授業の進め方		履修の条件・進路
国語で適切かつ効果的に表現する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、言語感覚を磨き、進んで表現することによって国語の向上や社会生活の充実を図る態度を育てる。		1 講義形式を中心に進める。 2 調べ学習やグループワークも取り入れる。		1 全員が履修する。 2 四年制大学進学に適している。

	学 習 内 容		学習のポイント	学習の到達目標
1 学 期	中間 考 査	枕草子 「うれしきもの」 故事・逸話 「水魚の交はり」 「死せる諸葛 生ける仲達を走らす」	- 作者のものの見方や感じ方を把握し、当時の人々の暮らしや価値観を理解する。 - 三国時代の情勢を理解し、上下関係を越えた人とのつながりの深さや人間の生き方を学ぶ。	- 作者が列挙した内容をつかみ、現代の暮らしや価値観との共通点・相違点を考える。 - 漢文学習の基本を復習する。 - 自身の人生訓を考える。
	期 末 考 査	堤中納言物語 「虫めづる姫君」 漢詩—古体詩 人生・社会	- 現代の社会と結び付け、比較することを通して古典文学の世界を理解する。 - 人生の哀歓や苦悩、社会に対する省察や批判を読み取る。	- 姫君の言動や周囲の人々の反応を、現代に当てはめて考える。 - 詩に描かれた情景と作者の心境を理解する。
2 学 期	中間 考 査	蜻蛉日記 「町の小路の女」 紫式部日記 「和泉式部と清少納言」 史伝—『史記』列伝 「勿頸の交はり」	- 作者の境遇についての認識を深め、心情を読み取る。 - 作者の繊細な感覚と人物評を読み取る。 - 巧みに描き分けられているそれぞれの人柄を的確に把握し、その心情や性格について理解を深める。	- 日記における和歌を用いた表現の特色について理解する。 - 話題の人物に対する作者の評価の妥当性を考える。 - 司馬遷の描写力に注目し、構成や展開などを捉える。
	期 末 考 査	無名草子 「紫式部のこと」 源氏物語 「葵の上と物の怪」 思想 師弟・愛・常識を疑う	『源氏物語』に対する作者の考えを読み取る。 - 登場人物の言動や心情を捉え、それぞれの人物像を把握する。 - 対話や文章から人間の在り方を学び、現代での意義を考える。	- 紫式部がどのように批評されているかを理解する。 - 六条御息所の思いを踏まえ、物の怪について考察する。 - 古代中国の思想が現代につながっていることを理解する。
3 学 期	学 年 末 考 査	大鏡 「鶯宿梅」 小説 「人虎伝」	- 登場人物のやりとりから、当時の価値観を理解する。 『山月記』との比較を通して、中国古典小説としての『人虎伝』のおもしろさを味わう。	- 和歌に込められた梅の木の持ち主の気持ちをを読み取る。 - 虎になった理由の違いについて考察する。
取組 の ア ド バ イ ス	○授業の取組 1 板書を中心に独自のノートを作る。 2 自分の考えを持ち、発表する。 ○家庭学習 1 ノートに本文を書写し、分からない語句を調べ、口語訳する。 2 音読する。 ○定期考査の勉強 1 教科書、ノート等で復習する。 2 ワークの問題を解く。 3 ノートにまとめ直す。 4 友人間で問題を出し合う。 ○その他 何事もよく考え、よく調べ、自主的に取り組み、他者と協力する。			
評 価 方 法	3つの観点別学習状況の評価の達成度をもとにして、総合的に評価します。（100点法）			
	知識・技能	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにする。		
	思考・判断・表現	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通して先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。		
	主体的に学習に取り組む態度	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。		